

1. 運営体制

1) 運営組織	6
2) 広報	7
3) 情報収集	8
4) 点検・評価	9

1. 運営体制

1) 運営組織

①To-Collabo 推進室

To-Collabo 推進室は、室長、付教員 3 名、専任職員 3 名、地域コーディネーター1 名、特任職員 1 名、派遣職員 1 名及び小田急線「東海大学前」駅前の「東海大学サテライトオフィス 地域交流センター」に勤務する 3 名が所属している。

また、全国に広がる連携自治体との協力体制をより強固にすべく、各校舎に「COC 担当窓口」を継続して設置し、札幌校舎には地域コーディネーターを設け、活動を推進した。

なお、来年度からは組織改正により、「地域連携センター」にて活動を更に推進していく。

②To-Collabo プログラム運営委員会

湘南校舎に「To-Collabo プログラム運営委員会」を設置、原則月 1 回のペースで、年間合計 12 回（臨時含む）開催して、本プログラム全体の年間計画やそれぞれの事業についての審議・承認を行った。また、湘南校舎を除く各校舎における本プログラムの推進を司る機関として、各校舎にも To-Collabo プログラム運営委員会を設置し、校舎として取り組む地域志向教育研究経費課題（タイプ B）の計画、審議・承認・報告等も行った。

③各校舎 To-Collabo プログラム事務担当者連絡会

本プログラムの推進に向けた支援体制を強化するため、2016 年 6 月 13 日に全校舎を TV 会議でつないでの「各校舎 To-Collabo プログラム事務担当者連絡会」を開催し、情報共有を促進した。

2) 広報

学内外に広く To-Collabo プログラムで行っている取組みを周知することを目的に、ニュースレター「To-Collabo 通信」を昨年に引き続き4回(Vol.11~Vol.14)発行した。その他、学内向け周知のため号外を1回発行した。

また、Web サイト、Facebook での活動紹介を昨年に引き続き行った。

(参考)To-Collabo 通信 Vol.11~Vol.13、号外(Vol.14は本誌編集時作成中のため掲載なし)



Web サイト URL

<https://coc.u-tokai.ac.jp>

Facebook

<https://www.facebook.com/tokai.coc>

3) 情報収集

本学の大学COC事業における地域貢献活動、教育改革の参考にするため、国内他大学における地域連携の取組みを視察した。視察は、To-Collabo推進室課員のみならず、東海大学パブリック・アチーブメント（以下、PA）型教育を担う現代教養センター等、本学各部署教職員も参加した。以下は視察の概要である。

【視察先1：2016年12月13日 宇都宮大学】

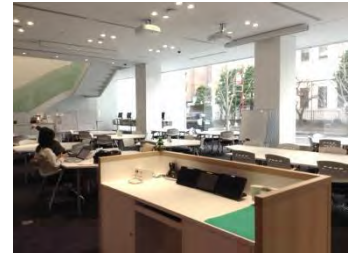
概要：PA型教育授業運営のための他大学COC科目授業見学

- ・授業見学「とちぎ終章学」（大人数授業及び演習授業）
- ・ラーニングコモンズ見学
- ・担当教員との意見交換

【視察先2：2016年12月20日 東北学院大学】

概要：PA型教育授業運営のための他大学COC科目授業見学

- ・授業見学「地域の課題Ⅱ」（少人数による演習授業）
- ・ラーニングコモンズ及び災害ボランティアステーション見学
- ・担当教職員との意見交換



【視察先3：2017年1月27日 横浜市立大学】

概要：PA型教育授業運営のための他大学COC科目授業見学

- ・授業見学「まちづくり実習Ⅰ」（中規模でのプレゼンテーション）
- ・担当教員との意見交換

【視察先4：2017年3月6日～7日 高知大学】

概要：平成28年度COC/COC+全国シンポジウム「地方創生と大学」での情報収集活動

- ・特別講演（衆議院議員（前地方創生担当大臣）石破茂氏）
- ・基調講演（株式会社小松製作所 相談役 坂根正弘氏）
- ・基調討論「先進技術と地方創生」
- ・事例報告

4) 点検・評価

①地域志向教育研究経費の採択審査

To-Collabo プログラム運営委員会の下に設置された採択審査委員会にて、提出された応募書類の内容に対して評価を行った。評価は各委員が(1)どのような課題に取り組み、現在の状況をどのようにして解決・改善していくかが明確かつ具体的に記載されているか、(2) 取組みの内容が「地域の活性化、地域への貢献を目的とし、地域を志向した教育の推進につながる活動」という本プログラムの趣旨を理解した上で考案されているか、といった視点から評価点とコメントの付与を行い、採択審査委員会において各取組課題に優先順位を付けた上で、学内外の委員で構成される To-Collabo プログラム評価委員会へ上程した。

To-Collabo プログラム評価委員会では、採択審査委員会による評価結果に基づき、連携地域、4 計画 8 事業、金額等のバランスを勘案した上で、取組みの採択案を作成して To-Collabo プログラム運営委員会へ上程し、同委員会における審議を経て、採択される取組課題と配算額が承認された。

②地域志向教育研究経費採択課題及び大学推進プロジェクトの成果に対する評価

To-Collabo プログラム運営委員会の下に設置された採択審査委員会が、地域志向教育研究経費採択課題及び大学推進プロジェクトの代表者から提出された「成果報告及び自己評価」を、(1) 計画通りに進んだか、(2) どれだけの成果が得られたか、という視点から評価点とコメントの付与を行い、その評価結果について To-Collabo プログラム評価委員会が、その評価結果・評価方法の妥当性についてのコメントの付与を行った。

(To-Collabo プログラム評価委員会から付与された主なコメント)

- ・ 事業によって参加者数にばらつきが見られる等、地域の参画を得るための取組みの選択には工夫が必要である。解決を図るには、継続的な実施が必要であり、そのためには、取組みを多くの地域関係者等に周知し、認知・参画してもらうことが大切である。
- ・ 各取組みの評価結果の分析を行いながら、高評価だった取組みの他自治体での展開が望まれる。
- ・ 大学推進プロジェクトのブランド創造事業や地域観光事業などは、近年、地方自治体が特に力を入れ、さまざまな取組みや事業等を進めている。そのため、得られた成果や成功事例に対して、大学が地方自治体に売り込むことを完成形に目指した展開が図られれば、大学の“知的財産”の面では、今後、最終成果として期待できるのではないかと。

③To-Collabo プログラムの進捗状況に対する評価

To-Collabo プログラム評価委員会が、本プログラムの「進捗状況報告」の内容に対して、(1)本プログラムを効果的・効率的に推進するための運営体制が構築されたか、(2)地域との連携は着実に促進されているか、(3) 教養教育の改革に向けた取組みは着実に進んでいるか、という視点からコメントの付与を行った。

(To-Collabo プログラム評価委員会から付与された主なコメント)

- ・ 地域連携の視点では、行政と今まで以上の係わり方を密にしていくことで、取組みへの幅や奥行きが更に期待できるのではないかとと思われる。
- ・ 補助事業期間終了後を見据えて、評価を評価のままにせず、評価結果を分析し、他の取組みや新たな計画立案に活かしていく必要がある。
- ・ これまで大学で個々に開催していたイベントや新しい企画を同時開催した「TOKAI グローカルフェ

スタ 2016」の開催意義はとても大きい。今後も取組みが継続して実施されることで、大学が一部の周辺地域の開放施設ではなく、自治体全体の財産となり、その活用と連携がますます図られることを期待する。

- ・ 4 年間の取組みを通して蓄積されたノウハウを、各取組みに有効な方法の提案等、今後の新たな取組みに活かしてほしい。

また、大学評価委員会が、To-Collabo プログラム評価委員会による評価結果をもとに、本プログラムの進捗状況に対する評価を行った。

(大学評価委員会から付与された主なコメント)

- ・ 地域連携講座やイベントについても、アンケート結果を講師や企画者等にフィードバックして、次に活かしてもらうことが望まれる。
- ・ 計画は予定通り実施されているが、大学推進プロジェクトにおいて、目指すべき校舎間を越えた取組みまでに至っていない。